

令和3年1月5日

保護者の皆様

昭島市立富士見丘小学校
校長 稲垣 達也

一 陽 来 復 を 希 ふ

新年おめでとうございます。今年のお正月は、皆様ご自宅で、穏やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。

12月末、市内全小中学校において、年末年始も休むことなくコロナ禍の困難な試練に献身的に立ち向かっている医療従事者の皆様への「感謝のお手紙」に取り組みました。

本校では、休校期間中にも「頑張っている方々への応援の手紙」に取り組むとともに、総合的な学習の時間に「コロナの時代を生きる」をテーマに学んでいます。私たちはその中で、医療従事者のみならず、あらゆる分野において多くの方々が助け合い、支え合いながら生き抜いている姿に、その力強さに、心の底から勇気づけられました。

今日は、二十四節気の‘小寒’です。『冬至より一陽起こる故に陰気に逆らふ故、益々冷える也』、いわゆる寒の入りとなります。これから‘大寒’を経て、二十四節気が一巡して‘立春’を迎えるまで、寒さが最も厳しくなっています。

しかし、一日の内でも「夜明け前が一番暗い」ように、苦難や雌伏の期間は、終わりかけの時期が最も苦しく、それを乗り越えれば事態は好転すると言われます。春を夜明けに例えると、春が来る前が一番寒いということです。春を迎える前に、厳しい寒さに耐え抜くことが必要なのでしょう。

コロナの時代を生きる私たちは、日々、答えのない問いに向き合い、自分の頭で考え、解決策を探る探究的な姿勢が肝要だと考えます。「こうだろうか」「ああだろうか」と思索する習慣が不可欠です。思索を続けることで、未知の解が生まれます。

歴史的な転換点に生きる今、これまでの常識や先入観に捉われることなく障壁を突破し、新しい発想で、新たな産物を生み出すことが、唯一の解決策となるでしょう。

物事を判断するとき、一旦立ち止まって、今迄身につけた素養をベースに自分の頭でしっかり考えることを大切にしていきたいと思えます。

更に言えば、非日常的な状況に置かれた今だからこそ、普段では自覚しにくい本質的な価値に気付くことができます。たとえば、学校があることの感謝、対面で友達に会えることの幸せ、生きていることのありがたさ等を実感しているのではないのでしょうか。

歴史の転換点において、何が重要なことなのか気付く瞬間があります。それが、今です。すべてを新しい方法で、創造的な方法で考え直すことができるのです。

しかしながら、それらはあっと言う間に失われてしまいます。学校があって当たり前、友達と会えて当たり前、生きていて当たり前…と。やがて「今まで通り…」「いつ元の生活に戻れるのか…」「昔はよかったなあ…」と懐古主義に陥り、もたもたしているうちに、新しい価値を認めない風潮が生まれる危うさもあります。

このお正月でさえ、今まで通り旅行に行きたい、出歩きたい、初売りに行きたい、等々の気持ちを抑えられず、新たな過ごし方ができていなければ、解決の道には到底辿り着かないでしょう。ましてや、自分だけは大丈夫と根拠のない過信の元、行楽や外食等続けることは、自ら世界の人々に困難と破壊を生み出しているようなものです。

結果がどうなるかは誰にも分かりませんが、歴史の節目だということをしっかり考えてほしいと思えます。兎に角、今は、コロナウイルスから「すべての命を守る」ことが第一義です。このことをしっかり心に留め、健康に留意し、物欲や快樂に惑わされることなく、心豊かな時を過ごされますよう願っています。

この1年、皆様と共に希望をもって歩んでいくことをお誓い申し上げます。